

2024 年 9 月

お客様各位

一般財団法人日本食品分析センター

食品における鉛及びカドミウムの分析方法変更について

～ICP 質量分析法の採用～

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、鉛及びカドミウムについて ICP 質量分析計による分析方法を検討し、食品について原子吸光光度法と同等以上の分析精度を確保できることが確認できました。ついては、食品における鉛及びカドミウムの分析方法を下記の通り変更いたしますので、ご連絡申し上げます。

何卒ご理解とご協力をお願い申し上げます。

敬具

記

1. 変更開始日

2024 年 10 月 1 日受託分*より

* 受付した旨のご連絡（預り証）をもって受託としております。

2. 変更内容

	変更前	変更後
対象検体種	食品，食品原料，食品添加物	
分析方法	原子吸光光度法	ICP 質量分析法
定量下限	鉛：0.05 ppm カドミウム：0.01 ppm	
分析料金(税抜)	各 7,500 円	
納期	10 営業日	

なお、継続して原子吸光光度法での試験をご希望の場合には別途ご相談を承ります。

3. 変更の背景

弊財団で従来から実施しております原子吸光光度法による鉛及びカドミウムの分析では、前処理に硝酸及び硫酸などの有害な試薬を多く使用します。ICP 質量分析法ではこれらの使用量を削減することができ、原子吸光光度法と比較して環境への負荷の低減、作業時の安全確保が可能となります。

4. 本件に関するお問合せ先

一般財団法人日本食品分析センター 衛生化学部

メール：（全国共通）pbcd-icpms@jfrl.or.jp

電話：（東日本のお客様）042-372-6706，（西日本のお客様）072-641-8963

【参考資料】

出典 参考資料	・ AOAC Official Method 2015.01 Heavy Metals in Food Inductively Coupled Plasma-Mass Spectrometry First Action 2015 ・ BS EN 15763: 2009 Foodstuffs - Determination of trace elements - Determination of arsenic, cadmium, mercury and lead in foodstuffs by inductively coupled plasma mass spectrometry (ICP-MS) after pressure digestion ・ 衛生試験法・注解 2020 1.1 機器分析法 ・ 誘導結合プラズマ質量分析法/AKBAR MONTASER 編 久保田正明 監訳，化学工業日社 ・ 第十八改正日本薬局方 一般試験法 2.63 誘導結合プラズマ発光分光分析法及び 誘導結合プラズマ質量分析法
妥当性評価 出典（例）	・ 食品中の金属に関する試験法の妥当性評価ガイドライン (平成 20 年 9 月 26 日付け食安発 0926003 号厚生労働省医薬食品局食品安全部長通知の別添)

以 上